

## マタイの福音書 第5章 8節

「心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。」

ある屋下がり、歩道を進んでいたら、向こう側から親子が手をつないで歩いて来た。母親と2〜3歳ぐらいの女の子である。背だけが大部違うけれども手をうまくつないでいる。近づき、真ん前に来たころ、女の子が母親に言った。“だっこ。” 甘えがでたのか、それとも疲れたのか、せがんでいる。二人は歩道の真ん中で立ち止まった。その様子を横目に見ながら、通りすぎた。母は確実に女の子を抱き上げるところを確かめることなく通り過ぎた。そうなる筈と思ったからだ。

女の子は疑いもなく母親に、だっこ、をせがむ。母親はだっこするしないにかかわらず、せがむ、我が子に向き合う。今回は、だっこ、したと思うが。我が子の声を無条件に聴いた筈だ。無心の声に応答する母親の無条件のところが響き合う。日常の光景ではあるが、普段の社会生活ではほとんど見る事が叶わない。

心のきよい者、はまさしくひとつの事柄に無心に取り組む者のことだ。ひとつのことに思いのすべてを注ぐ者のことだ。その一途さをこころに抱く者は幸いである。なぜなら、一途にこころを注ぐことができるのは、唯一の神だからである。

2021年12月16日